

6-4 松本城クイズ24 幕末と戸田氏・ペリー来航・伊藤軍兵衛解答解説

松本城管理事務所研究室

1. 嘉永2年(1849)に、異国船が江戸湾に入り下田に入港した。幕府は諸大名に防備を命じた。松本藩にも防備の要請があった。この時の異国船は、次のうちどこの国の船であったか一つ選びなさい。.....②

寛政4年(1792)にはロシアのラスクマンが、文化元年(1804)にはレザノフが通商や交易を求めて使節を派遣してきた。松本藩も警備を想定して準備体制を考えた。嘉永2年には、イギリス船が江戸湾に入り下田に入港した。幕府は諸大名に港の防備を命じた。

2. 嘉永6年(1853)6月3日、アメリカ東インド艦隊司令官が率いる4隻の軍艦が浦賀沖に出現した。松本にもこの情報が伝わり、異国の軍備や技術に驚き、好奇心は高かった。海上防衛のための人数、馬、武器の調達とそれにかかる費用は莫大なものであった。この時の艦隊司令官は誰か、次のなかから一つ選びなさい。.....③



寺島家文書

この黒船の艦隊司令官ペリー来航は日本の近代化の幕開けを告げる象徴的なできごとであった。対外的な危機感はい前からあったものの、異国船が渡来したことにより、より現実身を増し、海

上防衛のための人馬を確保、人員のくりだし、かかる費用の調達等が急がれた。

3. 戸田光庸(みつつね)の跡を継いだ光則(みつひさ)は、安政2年(1855)諸改革に着手した。借財が多く、倹約令と減知がその一つである。そのほか改革点として、「武備専要」の軍務規定である。武術必須の定めは、松本藩にとっては大きな改革であった。さてこの大きな改革を何と呼ぶか、次のなかから一つ選びなさい。.....①

誰でもが文武の稽古所に出席を義務づけた定めは、松本藩にとっては軍制改革であった。

4. 安政の大獄(1859)やその翌年の桜田門外の変後は、攘夷思想の高まりの中で、外国人殺傷事件が引き起されていった。文久元年(1861)年には高輪イギリス公使館が襲撃される事件が起こった。この事件を何と呼ぶのか、次のなかから一つ選びなさい。.....④

水戸浪士14人がイギリス公使オールコックの行動を「神州」の地を汚すものだと憤慨して斬り込んだ。これが第1回東禅寺事件である。幕府は、負傷したイギリス人に賠償金を払った。

5. 文久2年(1862)5月参勤交代で出府し、イギリス人公使館を警衛した松本藩士は、刀と藩用の槍を提げ、呉服橋の藩邸を出て公使館に忍び込んだ。イギリス人に発見されたため、一人を殺し、一人に傷を負わせ、自分も傷ついて藩邸に帰った。この松本藩士は誰か、次のなかから一人選びなさい。.....②

第1回東禅寺事件後、幕府の命で、大垣・岸和田・松本藩が警固に当たった。松本藩兵に伊藤軍兵衛がいた。この時23歳であった。かねてから軍兵衛は公使館衛兵の傲慢(ごうまん:たかぶり人を見下すこと)の意)な態度に憤慨していた。文久2年(1862)5月29日東禅寺に忍び込み、一人を殺し、一人を傷つけた。自分も傷を負う。翌30日切腹した。第2回東禅寺事件である。

6. 元治元年（1864）、武田耕雲斎を総大将とする水戸の浪士隊（天狗党）が、勤皇の志を京都にいる一橋慶喜（ひとつばしよしのぶ）に訴えようとて、信濃に入り中山道をのぼってきた。幕府の命令を受け、高島・松本両藩の連合軍は、和田峠下に陣を張り戦った。一進一退の攻防の末、水戸浪士軍の奇襲隊により連合軍の陣地は大混乱となり敗れ、総退却となった。この戦いを何と呼んでいるか、次のなかから一つ選びなさい。・・・・・・・・・・③



浪人塚

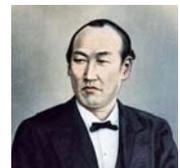
1月20日八時半時（午後3時）過ぎに浪士軍が現れる。山上から発砲して戦いが始まる。激しい戦闘は七時半時（午後5時）まで続いた。浪士軍の勝利に終わる。（高島藩は浪士軍に山伝いに背後にまわられ、山上より撃ち下ろされたため退却し、松本藩稲村隊に救援を求めた。松本藩も敗れ、両藩兵は樋橋村に火を放ち下諏訪方面に敗走して、戦いは終わった。）松本藩5人、高島藩6人の戦死者を出し、負傷者も多かった。8人ほどが浪士軍に捕らえられた。右の写真は和田峠下諏訪側の樋橋（とよはし）にある浪人塚である。この付近一帯で高島・松本両藩が戦った激戦地のあとで、塚には討死した浪士が6人葬られている。「樋橋の戦い」とか「和田嶺合戦」（わだれいがっせん）と呼んでいる。

7. 開国による商工業の発展は、貧富の差を生み、物価の高騰を引き起した。慶応2年（1866）は天候不順、藩の穀留め政策と商人の米の買占めがあり、米価は暴騰した。困窮民の群が松本平南部一帯に米騒動や打ち壊しを繰りひろげた。この騒動を何と呼ぶのか、次のなかから一つ選びなさい。・・・・・・・・・・①

木曾地方で起こった困窮民の群（洗馬宿で蜂起）が松本平南部一帯に押し寄せ、米騒動や打ち壊しを繰り広げた。関係した村々は、5つの所領で51ヶ村（2000人）、襲撃を受けた家は105軒、処罰者（入牢者）96人ほどになった。この一連の騒動を**木曾騒動**という。

8. 慶応4年（1868）2月29日、17歳以上の士分、小姓までの総登城となった。二の丸御殿での大評定であり、議論続出であったという。藩士の意思統一を図るものであった。藩主光則は、□□の決断をした。さてどちらの決断であったのか選びなさい。・・・・・・・・・・②

東山道軍は木曾街道までできていたが、二の丸御殿（お城）で新政府軍に帰順するか、主家徳川に殉ずるか（佐幕）か大会議を開き、議論した。決着がつかず藩主光則の決断を仰いだ。すでに決断をしていた。その決断を30日本山宿（塩尻宋賀）で、自ら総督府岩倉に謁見して**帰順の誓約**をした。態度の決定が遅れたため松本藩は謹慎を命ぜられた上、軍資金の献上や兵糧の抛出、人馬の動員などが命ぜられた。



戸田光則

9. 藩主光則の決断によって、総督府軍（官軍）に従軍しただけでなく、飯山戦争や北越戦争（越後）、さらに□□へと進んで奥羽越列藩同盟軍と激しい戦争を繰り広げていった。□□に入る土地名を選びなさい。・・・・・・・・・・④

1868年（慶応4・明治1、戊辰の年）から翌年まで行なわれた新政府軍と旧幕府側との戦い（鳥羽・伏見の戦い、上野戦争、長岡藩や会津藩の戦争、さらには箱館戦争まで）を総称して戊辰戦争と呼んでいる。松本藩は**会津**まで出兵した。出兵者410人のうち死者3人、負傷者4人。

10. 次の写真は、現在市内和田地区西善寺にある仏像である。明治3年（1870）～4年に吹き荒れた仏教排撃運動によって、難を免れて城下年来寺より運ばれてきた仏像である。松本城下町では4寺を残して廃寺となった。時の藩知事戸田光則の、朝廷への忠誠心の現れといえるだろう。さてこの廃仏毀釈運動で難をのがれなかった寺を一つ選びなさい。・・・・・・・・・・②



難をのがれた仏像

松本城下で難をのがれた寺は、正行寺・極楽寺・長称寺・宝栄寺の4寺である。従って**正安寺**が難をまぬがれられなかった。旧藩主で当時藩知事に任命されていた戸田光則が率先垂範して、この運動を推進した。藩領180寺のうち、廃寺は140寺におよんだ。実に78%が廃寺となった。また仏像や仏画など貴重な文化財も破壊された。